

寺報 佛心

第49号

日輪山 長久寺

【発行所】

岩国市美和町生見八一七
電話 〇八二七(九六) 〇九八二
FAX 〇八二七(九六) 〇九八二
発行人 三上宗順

ご案内

春季大法要

三月二十三日(木曜)

午後二時から

春季大法要

檀信徒各家ご先祖塔婆供養

詠歌師 日光寺 岡 薬山師

説教講師 南禅寺派 圓通寺

吉富宜健師(久留米市)

コロナ感染症も落ち着き、

久々に左記のとおり春季法要を執り行うことになりました。

ご近所お誘い合せの上お参り下さい。参詣される皆様にはマスク等感染防止のご協力を願っています。

尚、七教区内の申し合せで食事の接待は取り止めること

になりました。あしからずご了承ください。

塔婆供養の申込について

塔婆供養の申し込みは三月

二十三日の当日までに、各班

の役員世話人さんまたは長久

寺までお申し出ください。



お彼岸のお勤めについて

左記の日程で檀徒各家にお彼岸供養にお参りします。戸

が開けばお留守でもお勤めをさせて頂きます。ご都合の悪い方はご連絡ください。

☎0827-96-0982 長久寺)

十一日 地区外

十二日 地区外

十三日午前 友重・平原

十四日午前 野登路一班

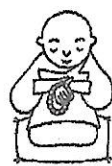
十五日午前 野登路二班

十六日午前 市原一班

十七日午前 市原二班

十九日午前 国木原一班

二十日午前 国木原二班



幸せになる方法 その4

「オレは最強」を貫いたテニスの国枝選手は、16年のオリパ

ラで負け、この言葉を書いた紙をラケットから外そうかと

悩んだ。しかし外すとその瞬間に戻ってこない気がした。

「オレは最強」と断言することで、弱気の虫を外に飛ばして

行けた、と述懐しています。

信心とは「こころ」を信じること。最強の国枝選手でも自分の心を信じることに迷いが生じた時もあったようです。

「こころ」とは国枝選手の場合「最強」を描いた心のこと。その「こころ」(最強)を信じ

切ることで、弱気という不安を断ち切ったのですね。

信じ切るとはどういうことでしょうか。「信じる」ことに迷いや不安がない。欲得も愛憎もない。生死もない。国枝選手の場合ラケットに集中ですね。

「オレは最強」なんておごり

高ぶり生意気に見えますが、信じ切ること絶大なパワーが発揮されたのですね。

幸せも同じ。迷いや不安や

欲得も愛憎も有っては成り立ちません。自分のまわりを信

じること。そして幸せには絶

大なパワーが秘めているのです。

トノサマガエルは冬眠中

お寺の前の田圃に続く高いのり面は20年くらい前の圃場整備ででき、この年月で草刈り用の道がつぶれてしまいました。この冬の暖かい日の午後、急げ心をふるい立たせて道作りに挑戦。しばらくクワを使っていくと、そのクワが白い腹のカエルをすくいました。ばっさりやったかと拾い上げてみると、無傷でほっとしました。背中に黒い模様のきれいなトノサマガエルです。

冬眠中はじっとしているとはいえ、4〜5ヶ月も何も食べずによく体がもつものです。生命の神秘ですね。

人間の体も神秘です。ある本に「空砲と水と塊を見分ける肛門はえらい」とありましたが、造るのは今の科学技術をもってしても無理らしいです。たまには「お前はえらい」

と誉めないといけません。ただ今後歳とともにこの機能の過信は禁物です。お前を信じたばっかりにと、わが肛門を恨むことになりますから…。

人間の体や自然界の神秘は、現代科学が化学や物理の法則でなぜ解きをしています。科学には神秘はないようです。しかしそれにちっとばかり疑問符を付けたのが、この度のコロナパンデミックでしたね。

科学への期待は大きく、ウイルスの解明による予防方法やワクチンの誕生は成果です。ですが結局かの国の0コロナも失敗し、全人類が命がけで立ち向かわざるを得ませんでした。総人口80億のうち、6億7千万人がかかり、6千8百万人が亡くなりました。第二次世界大戦の総死者数が8千万人ですからね。

いや数字を問題にしてはい

けません。死と死の恐怖が問題なのです。80億がおびえ、その死がいつも生の背中合わせである事を思い知ったのです。それになんたか社会がすすんできて、見境なしの人殺しや泥棒が横行し、核戦争も視野に入り世界の滅亡まであと90秒らしいです。

とはいえ何事もなくても「生あるものは必ず死す」ですが、そうやすやすと、わが死を認められないのも人間の業というものです。

新聞に「死と生を見つめて」という特集記事がありました。死に行く人を看取る緩和ケア病院の医師が、自ら癌にかかり死に直面し「来世はあれがいい」から「あるべきものだ」に変わり「死は現世から次の世界の通過点」だと思いきらされたというのです。

私は思わず膝を打ちました

が、皆さんはどうでしょう。

人間には死後は必要だと。なぜなら死の恐怖は薄らぎ、むしろ死後に夢や希望を持つことができるからです。

先に亡くなった人に会える。お互い「ありがたう」「ごめんね」を言い合える。今度こそいい男(女)に巡り合うぞとか、清く正しく生きようとか。あんなことこんなこと、夢が膨らんで楽しくなるはずです。

死はゼロになると思うから恐怖であり、心が荒れ怒りや恨みを生み、苦痛です。逆に夢や希望が持てれば、病氣や認知症になっても穏やかで楽に生きられるというわけですね。ところであのカエル。起こしたけど夢の続き見れたかな…。私も今年から、春と秋は昼寝もして、暑い夏は夏眠、寒い冬は冬眠しようっと…。

そりゃ永眠というのでは…。